



(今月の膜構造建築物)

物件名：城北埼玉高校食堂棟 設計者：(株)熊谷組
 投影面積：440㎡ 元請：(株)熊谷組
 膜施工：協立工業(株)

膜構造定期点検資格者 (新規) 講習会

- 参加者募集中 -

日時：3月3日(金) 午前9時半(協会会議室)
 詳細案内は事務局まで

1月までの動き

会議名	12月	1月	次回	活動内容
理事会	6日(火)		3/7	新規会員の承認、来期活動方針等
運営委員会	6日(火)		3/7	同上
賀詞交歓会		13日(金)	H19.1.12	協会の活動報告・事業計画案説明、意見交換
A種、B・C膜構造部会			3月予定	CI-NET取得コードの活用について
普及情報委員会	19日(水)		3/23	来期活動方針、各地講演会の企画
定期点検者資格講習会			3/3	新規資格取得申込者のための講習会(考査共)
維持保全委員会	26日(月)		3月予定	定期点検報告書の審査
仮設建築物委員会			未	告示改正に伴う技術指針及び解説の検討

【事務局より】

- 会員の皆様より、膜協だよりについて幅広くご意見、ご希望をお待ちしております。
- 膜構造実績写真及びその概要を募集しています。(膜協だより掲載用、パンフレット更新用)
- 事務局E-メール：
info@makukouzou.or.jp
- 膜協ホームページに会員専用ページを設けています。過去の膜協だより、技術ニュース、行事・委員会日程を掲載しています。その他ご要望があれば、ご連絡ください。

故太陽工業会長 能村龍太郎氏「お別れの会」のご案内

故能村龍太郎氏の「お別れの会」が下記ご案内のとおり執り行われます。会員皆様方のご臨席をお願い申し上げます。

記

日時：3月31日(金) 午前11時30分～午後1時
 場所：リーガロイヤルホテル 3階「ロイヤルホール/光琳の間」
 大阪市北区中之島5-3-68

- * ご香典ご供物ご供花の儀は堅くご辞退申し上げます。
- * ご来臨の節は平服にてお越し下さるようお願い申し上げます。

<本件に関するお問い合わせ>

太陽工業株式会社 総務課広報担当：上田

TEL：06-6306-3033

膜構造の発展と当協会に尽くされた能村龍太郎太陽工業株式会社社長に対し謹んで哀悼の意を表します

社団法人日本膜構造協会は、1978年（昭和53年）にそれまでの任意団体の膜構造協会を発展、改組して設立され、会長として能村龍太郎太陽工業株式会社社長が就任されました。

それまで、膜構造は「テント」として一般には建築物とは認められず、構造規定も未整備でしたが、1970年（昭和45年）の大阪万国博覧会等を通して社会的に特色のある建築物として知られるようになり、建築の一分野として次第に認められるようになりました。それに伴い、この膜構造の技術的内容を高め、一層の安全性と社会の信頼を得るため、法的な基・規準類の整備が必要となりました。この新しい協会には、多くのファブリケータ、膜材料メーカーが参加し、大手の建設会社の参加が頂けるようになり、また学会から研究者が集まり、膜構造の発展は一段と進んだと考えています。

当時、膜構造は仮設しか認められない時代でしたが、「テント倉庫」が初めて仮設でない建築として建設省より認定を受け、膜構造の第一歩を踏み出しました。

以後、25年間、当協会の会長を勤められ、協会及び膜構造全体の発展に努められました。

* * * *

現在、テント倉庫から大規模ドームまで協会で技術的な裏づけをもち、世界的にも知られた協会とすることができたことも、ひとえに会長の方針に沿ったことと思います。

同時に、日本の膜構造の発展期に光を放った太陽工業株式会社を引張った能村会長の働きは、広く膜構造を社会に知らしめ、現在、同社は膜構造で世界最大の会社としています。

* * * *

私が大学で膜構造の研究を始めようとしたときは1965年（昭和40年）ころですが、まず当時の太陽工業株式会社に相談したものです。そのとき、能村龍太郎社長が直接、私の大学の研究室にお見えになり、初めてお会いしました。まだ社長は40代の若い方でした。その頃は「膜構造」という言葉もなく、話は「テント」という言葉でお互いに話したものです。その時代の、鉄とガラスとコンクリートの近代建築に対し、私は何か違った建築の表現を持つこのテントに言い知れぬ魅力を感じていました。

当時の私は、テントが現在あるように建築の一分野を確実に表現することのできる構造方法であることには気が付かず、仮設建築であっても、その曲面の表現に興味をもっていたに過ぎませんでした。しかし、会長はすでにテントによる様々なアイデアをお持ちでした。

その頃の建築基準法では、仮設建築物以外は、「屋根は不燃材料で造り、又はふかなければならない。」とあり、膜構造にとって大きな障害でした。このことを申し上げると、会長は、世の中で「これが欲しい」というものがあれば技術は必ず実現してくれる、と言われたことを印象強く憶えています。事実その後、僅かの間に不燃材料としての膜材料が登場しています。

当時の会長の膜構造に関するご発言は、われわれの考えの及ばない大きな夢に満ちたものでした。これらのことは国外のファブリケータでも知られ、能村龍太郎会長を慕う方が多く、外国旅行をすると、多くの話題が寄せられます。私がご一緒したシドニーでの会長のご講演のときは、膜構造への壮大な夢を語られ、観衆を魅了したことがありました。私どもの技術的な話とは別に、膜構造のなかに楽しい夢を描くことができました。これらのことについては、何冊かお書きになった随筆のなかで示されております。

最後にお書きになった御著「私の考え方 - 道を描き、未知を歩く - 」は、2003年（平成15年）刊行で、そのなかに、「膜構造は自然現象のなかでの存在であり、まだ未知の分野が多いのが実情です。今後一層、この構造物に対して日々細心の注意を怠らず、絶えざる精進を続けていかなければ、いつ恐ろしい「天罰」を受けることになるかわからないと思っています。」と書いておられますように、単に夢ばかりでなく、未知なる道にある自然の外力の恐ろしさを認識され、膜構造という新しい構造の安全についても考えられていたと思います。

このような考えは、協会の方向にも投影され、半歩でも新しい挑戦をするという立場、安全の確保という立場で協会運営が進められてきました。日本の膜構造の新しい進展はこの熱意によって具体化され、他国に例をみない膜構造の発展につながったと思っております。

* * * *

今後も、協会として初代の会長のご遺志を尊重し、膜構造の健全な発展のための努力を惜しまない覚悟をもって進めていくことを申し上げ、ご冥福を衷心よりお祈りいたします。

（社団法人 日本膜構造協会 会長 石井一夫）